

# 駒澤大学 3 - 1 日本大学

クロスを頭で合わせ、先制点をあげた桑原。「9割は菊地のゴール」と数年ぶりにあげた得点を振り返った。(撮影・野澤俊介)



## 強さを見せた駒大！ 連戦で重ねた勝ち点

### 乗り切った過密日程

第一試合で順大が負けたことにより、この試合の結果によっては首位に躍り出ることになった駒大。このプレッシャーが災いしたのか、立ち上がりは日大にペースを握られる。その原因は牧野が「バックパスをカットされて、相手にチャンスを与えてしまった」と振り返るとおり、してはいけないミスが目立った。上位陣の筑波大や国士館大との対戦ならば失点してもおかしくない場面が続いたが、日大にフィニッシュまで持ち込まれるも失点は間逃れた。対して駒大の攻撃は日大が3バックだったこともあり、前半からサイド攻撃で攻め込むと思われたが、中盤の連携が悪く、流れの中からは良い形を作れないでいた。先制点は宮崎のCKから始まり、最後は桑原が頭で押し込んだ。

後半は開始直後の4分に失点してしまい、このまま日大に主導権を握られてしまうように思われたが、48分に宮崎が30メートル以上のFKを直接決め、傾いた流れを引き戻した。その後は暑さから日大が急激にペースダウン。駒大が得意の消耗戦に持ち込んだ。終盤に原に代えて田谷を投入し、幾度となく決定的な場面は作るも決めることはできなかった。追加点は6分に赤嶺が決めた1点のみ。結果3-1と駒大が勝利したものの、なか物足りなさが残る試合となってしまった。秋田監督も「後半、相手が疲れたときにもっと執拗にやれば4点、5点とれていた」と決定力のなさを嘆いた。また、波状攻撃も少ないのも問題だ。

2週間で4試合という過密日程を全て勝利したが、秋田監督は「今は勝負の時じゃない。勝負どころで疲れていたら意味がない」と毎回メンバーを入れ替え、力を温存している。その中でも勝利を収め確実に勝ち点を積み重ねている駒大だが、次節からがより厳しい戦いとなる。次の東学大戦に対し牧野も「やることを徹底してやらないと足をすくわれてしまう」と警戒している。しかし、この試合の内容では不安要素が多い。結果が出ているだけに、今後の一番の敵は上位陣よりも自身の「気の緩み」になることになる。

(川崎 篤彦)